

氏名	青山 真
学位の種類	博士(医学)
学位記番号	第 6 3 6 号
認定課程名	防衛医科大学校医学教育部医学研究科
学位授与年月日	令和2年2月21日
論文題目	子宮体癌におけるリンパ節転移予測指標の研究 (A study on predictive markers for lymph node metastasis in patients with endometrial cancer.)
審査担当専門委員	(主査) 東京医科歯科大学 教授 植竹 宏之 順天堂大学 教授 板倉 敦夫 東京医科歯科大学 教授 宮坂 尚幸

審査の結果の要旨

子宮体癌におけるリンパ節郭清についてはその治療的意義が不明である。リンパ浮腫は主にリンパ節郭清後の合併症であり、患者のquality of lifeの長期的な低下を引き起こす。今回の研究の目的は、術前の血液検査や免疫組織化学的な評価から、リンパ節転移の予測因子を同定することであった。

結果は以下の1)～3)であった。1) NLR (好中球/リンパ球比) 高値はリンパ節転移における独立したリンパ節転移のリスク因子であった、2) チロシン残基およびセリン残基リン酸化STAT3発現はいずれも臨床病理学的因子や予後と負の関連を示した。またセリン残基リン酸化STAT3発現はリンパ節転移と有意な負の関連を示したが、多変量解析では有意ではなかった、3) VEGFBの発現はリンパ節転移における独立したリンパ節転移リスク因子であった ($p = 0.048$)。VEGFAおよびVEGFR1はリンパ節転移や予後との相関を認めなかった。また、予後についてはVEGFA、VEGFB、VEGFR1とも有意な関連を認めなかった。

審査員から1) に関して「リンパ節郭清個数による影響は無いか」、「NLRのカットオフ値について、ROC曲線から判断するのは適切か」、「TNM分類との比較は？」などの質問に対して、それぞれ「リンパ節は20-30個郭清されており、その個数は結果に影響しなかった」、「Sensitivityは極めて高いがSpecificityが低いので、『不必要なリンパ節郭清を行わない』という目的にFitしているとは言えない」、「古い症例はFIGO分類のみが行われ、TNM分類を振り返ることができなかった。また画像精度も年代によって異なる」といった適切

な回答が得られた。

よって、本論文の学術的価値は高く、博士（医学）として合格と判定した。